

柴崎 浩●著

『神経診断学を学ぶ人のために』

書評者

水野 美邦（順天堂越谷病院院長）

このたび、柴崎浩先生が『神経診断学を学ぶ人のために』という本を書かれた。わが国における臨床神経学・神経生理学の第一人者である先生の単著である。アメリカでのレジデント生活の経験も持たれる先生の御本で大変期待の持たれる単行本である。先生は、京都大学臨床神経学講座の主任教授を務められ、今は退官して武田総合病院の顧問をしておいでになる。

目次を拝見すると、神経疾患の診断（総論）、病歴聴取、診察の手順、意識状態の把握、脳神経領域と脳幹と続き、後者はさらに嗅覚、視覚から舌下神経まで、詳しく記載されている。次は、頸部と体幹、四肢の運動機能、腱反射と病的反射、不随意運動、体性感覚系、自律神経系、姿勢・歩行と続き、神経学的診察が完了する。さらにその先には、精神・認知機能、失語・失行・失認、認知症、発作性・機能性神経疾患、心因性神経疾患、視床下部と神経内分泌、神経内科的緊急症、日常生活障害程度、機能回復と予後、検査方針の立て方と続き、神経学的診察の結果から、どのようにして病因診断に進むのか？わかるように配慮されている。

最初の神経疾患の診断の項目を紐解くと、神経疾患の三段階診断法の重要性をまず強調され、部位診断、病因診断、臨床診断の順になされるべきことが強調されている。病歴聴取では、若年者の脳血管障害の重要性が強調されている。若年者にも、高血圧、高脂血症、糖尿病などの危険因子が広がり、脳血栓や脳出血が稀でないことが強調され、さらに SLE やホモシスチン尿症などにも気をつけることが記されている。脳神経に至っては、詳細に図での解説を含みながら、種々の症候が出てくる状態が記載されている。不随意運動の項は、柴崎先生のご専門領域で、各不随意運動の詳細が、ご自身の研究成果を踏まえた図を取り入れながら解説されており、専門家にとっても貴重な内容である。例えばミオクローヌスの項では、皮質反射性ミオクローヌス、脳幹起源のミオクローヌス、脊髄起源のミオクローヌス、分類未定のミオクローヌスに分け、それぞれどのような疾患があるか記載されている。さらに嬉しいことには、主な疾患の解説が、Column の形で随所に挿入されていることである。

本書は神経症状を有する患者さんを拝見する神経内科医が、いかにして正しい診断に到達できるか、最初の診断からのプロセスを丁寧に解説した素晴らしい書物である。病歴聴取での大切な要点、すなわち、部位診断、病因診断、臨床診断に分けて診断を記載することに始まり、そこからどのような検査プランを立てればよいかわかるように記載されている。さらに、診察の過程で生じるさまざまな疑問に答えるべく、それぞれの異常を出す、主な疾患にも触れ、さらに視床下部と神経内分泌や神経内科的緊急症にも触れ、どのような患者さんに接しても不自由を感じないように配慮されている。本書は、神経内科の臨床を始めた初心者のみならず、初心者の指導にあたっている熟練の神経内科医にも読むことが薦められる良書である。この本の作成に当たられた柴崎浩先生に深甚の謝意を申し上げたい。

B5 頁 352 2009 年 医学書院刊
定価 8,925 円（本体 8,500 円＋税 5%）
[ISBN978-4-260-00799-3]

